

大分類	発言内容（匿名化・箇条書き）	事務局回答・対応方針
A.通学負担・安全性	・ 遠方からの通学で子どもの安全をどう確保するか不安 ・ 市としてどのような交通網を構築するか明確にすべき ・ 市街地から特認校へ通学する方への交通費等の支援が不十分 ・ 小規模特認校の強みを活かすなら通学支援をもう少し手厚くしてほしい ・ 費用面がネックで入学に踏み切れない保護者がいるのでは	・ スクールバスの運行については検討中 ・ 通学支援の充実は今後の検討課題として認識している
B.教育環境・学校規模	・ 郊外に住んでいる人の声を特に重視してほしい ・ 給食施設を新しく建設するのか、既存施設を活用するのか知りたい ・ 「適正規模」「適正配置」という表現に違和感がある ・ 子どもたちにとって何が適正かという視点で検討してほしい	・ 給食については給食センター方式を採用しており、既存施設の活用を基本に検討する ・ 「適正」という表現については、子どもの教育環境の観点から文科省の手引きを参考にしている
B.教育環境・学校規模	・ 資料に小規模校のデメリットばかりが記載されており情報が偏っている ・ 文科省調査で小規模校の学力定着効果や大規模校ほど不登校発生率が高いデータがあるが記載がない ・ 義務教育学校では小学6年生としての卒業式がなくなり、リーダーとして活躍する場が失われる ・ 中学1年生としての新たなスタートの節目も重要 ・ 義務教育学校には課題もあり、肯定的意見ばかりではないことを市民に知らせるべき	・ 小規模校の良さも認識しており、バランスの取れた情報提供に努める ・ 義務教育学校の6年生については、節目を設けるなど各校で工夫している事例がある
B.教育環境・学校規模	・ 過去4回も統合の話が持ち上がった歴史がある ・ 小規模特認校の教育効果をどう捉えているのか ・ 「切磋琢磨」という言葉が教育基本方針等に明記されているのか ・ 義務教育段階でそこまで切磋琢磨が必要なのか疑問 ・ 小規模特認校の定義に書かれた良さはどの学校でも実践しているのではないか	・ 小規模特認校は少人数でのきめ細かな指導や自然環境を活かした教育が特徴 ・ 切磋琢磨は一定規模の中で多様な考えに触れることの意義として説明している
B.教育環境・学校規模	・ 小規模特認校の地域の子どもが義務教育学校に通うことを希望した場合、可能なのか	・ 基本的に通学区域は住んでいる場所で決まる ・ 部活動や教育的配慮が必要な場合は指定校変更の検討も可能 ・ 最終的な学校配置が決まらなると明確にはお答えしづらい

大分類	発言内容（匿名化・箇条書き）	事務局回答・対応方針
B.教育環境・学校規模	・小規模特認校は郊外に設置しなければならないルールがあるのか ・市街地への設置も検討可能か	・必ずしも郊外でなければならないということはない ・市街地に設置することも当然考えられる
C.心理的安全性・移行支援	・統合の時期について、受験を控えた生徒への配慮をしてほしい ・学校が変わることで子どもたちに負担がかからないよう配慮してほしい	・移行時期については子どもたちへの影響を最小限にするよう検討する ・受験期の生徒については特に配慮が必要と認識している
E.まちづくり・人口減少対策との整合	・教育委員会だけでなく市全体でまちづくりを考えるべき ・福祉や地域振興など各部門が一堂に会して議論すべき ・学校再編だけを先行させず、地域全体の将来像を示してから教育の議論をすべき	・まちづくりの観点は全くその通りで、教育委員会でもそのような議論があった ・教育委員会でフレームを作り、福祉や地域コミュニティの観点も合わせて検討していく ・市長部局にも情報を共有し、3～4部門が関わって検討を進めている
E.まちづくり・人口減少対策との整合	・適正規模という言葉の定義がよく分からない ・学校統合だけでなく、少子化をどう鈍化させるかの議論が必要 ・大学があり毎年350人程度の学生が来ているが、卒業後は就職先がなく地元に残らない ・教育だけでなく行政全体でまちづくりを考えるべき ・このままでは消滅自治体になるという危機感がある	・少子化対策やUターン促進は行政全体の課題として認識している ・市だけでは難しく、経済団体等とも協力しながら施策を展開していく ・「戻りたい」と思ってもらえるまちづくりが必要だと考えている
G.交通・運営体制の実現可能性	・地域の人が理解できるように丁寧に説明してほしい ・まちづくり懇談会でも説明する予定があるか確認したい	・7月22日に農村環境改善センターでまちづくり懇談会を予定しており、そこでも説明を行う